

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

【ドル/円 週足】



2017年は前年のトランプ・ラリーの流れを受け、年初に118円60銭の高値をつけました。

2016年12月にFRBが利上げを実施、堅調な足取りを続ける米国経済を前提に本年も継続的に利上げが実施されると予想されること、トランプ新大統領の経済政策（大規模なインフラ投資、大幅減税）への期待を背景にドルが上昇するシナリオが市場の大勢を占めていました。

しかし、実際には年初の118円台が今年の高値となり、ドルは軟化し4月には108円13銭の安値をつけています。

ドル安の背景には、米新政権の経済政策実施が遅延していること、シリア攻撃に端を発した地政学リスクの高まりを受けた北朝鮮リスクの顕在化、さらにはトランプ政権のロシアゲート疑惑などが挙げられました。

その後は114円37銭まで値を戻すも、108円81銭まで下落、114円49銭まで再浮上後再び110円割れとなり、9月に入ってから107円32銭まで安値を更新しました。

9月に入ってからドル安・円高の背景には、米国のハリケーンによる経済への打撃などを背景としてFRBが年内後一回以上の利上げを行うとの期待が後退したことや北朝鮮リスクの高まりが挙げられるでしょう。

北朝鮮は、大陸間弾道ミサイルの発射や大規模な核開発実験など、米国をはじめとした国際社会への挑発を強めており、軍事的緊張の高まりがマーケットをリスク回避姿勢へと向かわせているとい

ドル/円相場のトレード戦略

えます。

ただし、地政学的リスクからのリスク回避による円高は短期的には大きな変動要因といえるものの、中期的な為替相場の方向性は米国のファンダメンタルズに左右されると考えられ、実際に米国のハリケーンによる悪影響が予想よりも小さいものにとどまるとの観測が出ると、ドルは113円台を回復する動きとなりました。

年末に向けては、9月FOMCで米国経済の堅調推移が確認され、さらにはトランプ政権による減税政策発動が現実味を帯びてきたためドルの上昇基調継続が期待され、これまで続いた110円～115円の取引レンジが上方修正される可能性が高まってきました。

115円をクリアの上抜くと116円半ばが視野に入り、この水準を抜けると本年高値118円がターゲットになってくるでしょう。

■短期展望

先週は、週初113円台でスタート後、やや軟調な推移で113円を割れる局面もあったものの、世界的な株高を好感しリスク・オンの流れのなか114円台を回復する動きとなりました。

週末の米雇用統計を受け113円半ばまで押し戻されながらも、その後は114円を回復して週を越えました。

今週も、ドルは底堅い動きが続きそうです。

注目の次期FRB議長にハト派のパウエルFRB理事が指名されましたが、すでに織り込み済みでありドル売りにはつながらないものと思われまます。

また、12月の利上げは確実視されてきており、また米税制改革への期待もあり、週明け6日には7月の高値を上抜けたことで、ドル先高感が強まっています。

短期的には、上値の節目の115円を抜けるかが注目され、下値に関して113円水準では押し目買い意欲が強まることが予想されます。